

# くまもと面白漫遊記

～白砂・下田代広報委員のおすすめのこの町・この人～

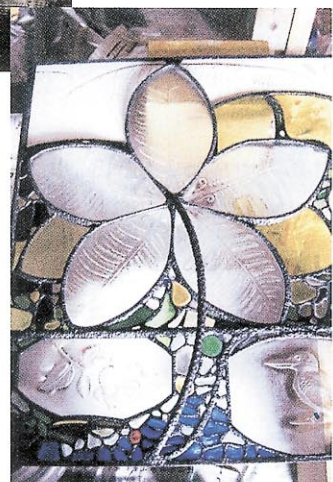
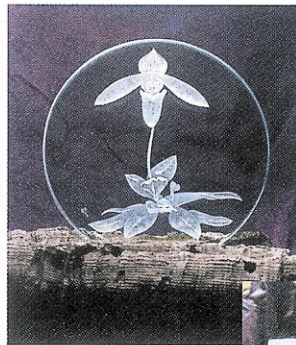
## No.21 人吉地区

### サンドブラスト・ガラス工芸の新たな魅力に挑む

～ガラス工房遊瑠璃・小田陽介さん 多良木町～

ガラスは重く、かさばる、壊れる…。  
なのに光を通すと、その美しさに感動する。  
サンドブラストという技法のガラス工芸の道を歩む  
小田陽介さんは、ガラスの魅力をそう語る。  
ガラスを自由に操りながら、今も驚きと面白さを  
発見する毎日を送っているのだ。

ガラス工芸の新しい可能性と魅力を秘めたサンドブラスト、  
その世界に小田さんが導いてくれる。  
人生の第二幕、故郷でガラスと向き合う日々を過ごす  
小田さんの工房には、太陽や電灯の光も鮮やかに  
変えてしまう瑠璃〈ガラス〉がある…。



小田さんの作品

人吉・球磨地方には、木工、竹細工、陶芸、鍛冶など様々な工芸作家が在住し、作品作りに励んでいる。その作品も伝統工芸や球磨の自然を生かしたものの、独創的な作品まで多彩で、作家の年齢も幅広い。

相良7百年の歴史に受け継がれた文化、それとも、球磨川が育んだ自然、緑深い山々に抱かれた、その静かでおおらかな環境が工芸作家の制作意欲をかきたてるのだろうか。

そんな人吉・球磨地方で白砂広報委員と下田代広報委員が新しいガラス工芸作家を見つけた。今回の主人公、多良木町でガラス工房を開く小田陽介さんである。新しいガラス工芸とは何か？いわゆる吹きガラスで作品を造るのではなく「サンドブラスト」という技法でガラスに装飾を施していくものである。サンドブラストとは一体、どんな技法なのだろうか。そして、ガラス工芸の魅力を多良木町から発信しようとしている小田さんとは、一体、どんな方なのだろう。サンドブラスト体験もできるということで、「くろひじガラス工房遊瑠璃」の小田さんを訪ねた。



小田陽介さん



サンドブラストで作ったキーホルダー



白砂委員と下田代委員

## 人生の第二幕をガラス工芸に賭ける 多良木に新たな瑠璃の世界 サンドブラスト

『くろひじガラス工房 遊瑠璃 (ゆうるり)』。瑠璃とはガラスの古い呼び名で「ガラスと遊ぶ」という意味の工房の名は、なかなか魅力的だ。

多良木町の田園の中にある工房へ着くと、隣の「建築板金」の看板が目にとまった。小田さんの実家の仕事は建築板金、小田さんの弟さんが継ぐということで、小田さんはガラス工芸に専念している。

小田陽介さん(38才)は、大阪でコンピューター関係の仕事をしていたが、企業戦士からの脱皮をはかり、大阪でサンドブラストを本格的に学んだ。7年前に帰郷、家業



白砂委員の作品



小田さんの作品

である建築板金を手伝いながら作品製作に励み、4年前に待望の工房をオープンさせた。

サンドブラストで製作された小田さんの作品は、グラス、写真たてなど様々。小田さんがデザインした彫刻やグラデーションの緻密さが光に照らされガラスの美しさを倍増させている。なんとも不思議でロマンティックな味わいがある。どうすればこんな細工ができるのか？と思わずにはいられない。



**白砂委員** Q：ガラス工芸の世界に入ったキッカケは？

**小田さん** A：大阪のコンピューター会社に就職したのですが、仕事で閉じこもったまま、台風が来たのも知らなかった時がありまして…。体力、精神力の限界を感じていました。そんな時、ガラス工房「藤工房」という所がマンションの一室でサンドブラストをやっていたんです。珍しいと思いまして、やってみることにしたんです。10年前のことです。それがサンドブラストとの出会いです。



焼きガラス作品

**白砂委員** Q：サンドブラストとはどんな技法ですか？

**小田さん** A：ガラスに硬質の砂を高圧で吹き付けて、ガラスに装飾を施していくものです。圧搾空気で削ったり、彫刻したり、熱を使わないガラス工芸です。ガラスはビンやコップのガラス、既成の板ガラスを使います。ビンやコップのガ



サンドブラストの作業中の小田さん



ラスはカットして、色が落ちない温度で  
焼き、ガラスピースを作ります。

そのガラスにいろんな絵や文字を入れていくんです。

なんでも自由にデザインができて、こんなこともできるんだ！という驚きと面白さを次々と発見できるんです。

皿、グラス、写真立てなどなど、いろんなものができますし、色、形、描くものに制限がなく、ガラスの魅力を生かすことができます。

言葉ではなかなか理解できななので、早速、体験してみることに。小田さんの工房では、簡単にサンドブラスト体験できるようになっていて、子供たちを中心に体験に訪れる人も多い。

#### 【白砂委員のサンドブラスト体験 キーホルダー作り】

①ガラスにテープを貼り、好きな文字や画を描く。白砂委員はKUMAKENと入れた。



②文字や絵の部分をカッターで切り抜く。



- ③サンドブラスターで砂を当てる。  
硬質の砂を高圧で吹き付ける。



- ④テープをはがすと文字や絵が浮き出てくる。



- ⑤金具をつけて「KUMAKEN」キーホルダーの完成。  
なかなかの出来ばえ！



(※このキーホルダーは1名の方にプレゼントします。詳細は特集最後の頁で)

下田代委員 Q：サンドブラストの他にもいろんな作品があるそうですね？

小田さん A：ステンドグラス、焼きガラスもやっています。

焼きガラスは、ガラス粉を使って皿や器を作ります。

これらを組み合わせた「グラス ミックスチャー」という新しいガラス工芸の分野を開いていきたいですね。



下田代委員 Q：小田さんが故郷・多良木町でガラス工芸をやるうと決心した理由は？

小田さん A：工房を開く前、人吉球磨工芸会という工芸作家のグループがあり、声をかけてもらいました。伝統工芸館でグループ展に参加させてもらったりするようになって、少しずつお客さんから注文が来るようになったんです。

それで、多良木でもやれるかもしれないと思いました。



## 人吉球磨のつながりを大事に 地元で頑張る小田さん

下田代委員 Q：今後の予定は？

小田さん A：都会だろうが田舎だろうが、基礎は同じ。サンドブラストはどこでも作業ができると思ったんです。土地に縛られないのがサンドブラスト。



しかし、最近、地域独自のものを作らなくてはいけないと思っています。回りを見ると、自然がいっぱい、植物がある。

この地域性を出した作品できないかと考えています。

自然のものじゃないガラスと自然との調和です。

例えば、シダの葉をデザインした作品を作りましたが今後は、このような独自性を持った作品を作っていきたいと思います。せっかく、自然に囲まれた多良木にいますし、地域性をデザインに出していきたいですね。

今度、開催される熊本県民文化祭への出品、作品と商品のバランスを考えた製作を続けていきたいですね。

展示会で新しい作品を作り、オーダーを頂いて商品を作る。

白砂委員 Q：人吉球磨の作家同士のつながりは大きいですね？

小田さん A：異業種の集まりで、横のつながりがあるんです。

若い工芸作家も多いですし、協力しているんな事ができそうな気がします。そして、もっとガラス工芸作家が育ってくれれば嬉しいですね。

白砂委員 Q：最後に、ガラス工芸の魅力を一言。

小田さん A：毒気があるというか、重いし、かさばるし、壊れるのがガラス。それが光によってこんなにも美しくなるんです。それを自由に作れるのが魅力でしょうか。ぜひ、体験をしてみてください。

## ガラスの美しさ・魅力を体験しよう！

小田さんの『くろひじガラス工房 遊瑠璃』ではサンドブラスト体験ができます。

ガラスチップに自分の好きな絵や文字をいれる作業は誰でも簡単にできます。

所要時間は1時間～2時間。

体験料は、キーホルダー500円、ペンダント800円、

ペーパーウエイト1,200円、持参のグラスなど1,000円。

体験希望の方は、必ずお電話を。

■くろひじガラス工房 遊瑠璃

球磨郡多良木町大字黒肥地 4 3 1 7 - 1

TEL 0966-42-4607



◎KUMAKENのキーホルダーを1名の方にプレゼント！

白砂委員がサンドブラストで作ったガラスのキーホルダーを1名の方にプレゼントします。ご希望の方はハガキで事務局まで。

事務局：〒862-0976 熊本市九品寺4-6-4

(社)熊本県建設業協会 KUMAKENプレゼント係

住所・氏名・会社名をご記入の上、キーホルダー希望とお書き下さい。

## ガラスの新たな魅力と可能性に挑む小田さんを応援

白砂委員、下田代委員・取材を終えて

サンドブラストを始めて知りました。ガラス工芸の魅力と可能性を感じる技法、斬新なアイデアやデザインによって、いろんなことができる加工法だと思います。何より、ガラスの美しさを引き出せるのが特徴です。

小田さんの人生の第二幕は、4年でまだスタートしたばかり。これから工芸作家として、商品生産者として、二つの道をどうやって歩んでいくかご苦労も多いかと思います。人吉球磨の工芸品の歴史にガラス工芸が新しい1ページを刻んでいく小田さんを応援したいと思います。